

名古屋文化学園保育専門学校 学校関係者評価者及び評価・意見

(令和4年度自己評価に基づく)

I 学校関係者評価 評価者

【業界団体】

公益社団法人 名古屋市私立幼稚園協会 前会長
國府谷 俊盛 先生 (旭キンダーの丘幼稚園園長)

公益社団法人 名古屋民間保育園連盟 副会長
宇都宮 美智子 先生 (中村保育園園長)

【他校、または他の教育機関兼務の本校非常勤講師】

春日井音楽院 前院長 花井 英一 先生

修文大学短期大学部幼児教育学科非常勤講師
牛田 弓子 先生

【卒業生】

平成14年度第2部卒業生
本多 伯舟 先生 (社会福祉法人 清涼会 理事長)

平成27年度第2部卒業生
伊藤 直 先生 (幅下幼稚園 園長)

II 各項目の学校関係者評価・意見

項目1 教育理念・目的・育成人材像

・項目1について、全般的に高い評価ができる。

1. 創立者の教育理念を具現化するために、女性の自立を理念の核とし、貴校の目的である幼稚園教員、保育士の養成のため様々な機会、場面、ツールを利用し学内外に「理念」を周知させている。また、各方面からの意見を幅広く求め、現代社会が求める人材を把握し、教育目標の適正な方向づけに努力している。また、新型コロナウイルス感染症の影響で滞りがちであった行事なども感染状況を見極め、積極的にウィズコロナを目指す姿勢が見られる。
2. 教育理念に沿った人材育成をされており卒業生の保育士は細やかな配慮が出来ている。貴校の学生が本園に実習に来る際も、本園の保育士ともしっかりとコミュニケーションがとれている。コロナの影響で教育・保育実習反省会などは中止になったが、教員が保育園を訪問し、現場の状況を聞き取り将来構想の参考にするなど、学生指導がしっかりできている。新型コロナウイルスの影響で人材育成や教育目的について十分に行うことができなかつた点は今後の改善を期待する。

3. 創立者の教育理念を具現化するために、様々な手法での取り組みがなされ学内外に理念を周知させていることは高く評価できる。
 4. 保育現場が求める保育者像は、求められる保育者の役割の多様化に伴い、多岐にわたるようになってきている。また、長期にわたるコロナ禍の影響で、価値観が複雑化し、今まで以上に保育士に求められる技能が多様化していることを踏まえ、社会的ニーズの把握に努めてもらいたい。
 5. 保育者養成校として、「社会人としての自立」「女性の自立」を目標とすることは大変意義深いことと思う。そのため、これまで以上に保育者の専門性を、学生だけでなく養成校や幼児教育・保育施設と連携して、広く社会に向けて発信や活動をして欲しい。
- 昨今の「不適切保育」が生じる社会的要因を考えると、「社会のニーズ」に重きが置かれ過ぎ、「子どもの豊かな発達や育ち」に悪影響が出ている。そのため、「社会のニーズ」を踏まえるという一方方向だけでなく、養成校や幼児教育・保育施設と連携して、社会に向けても「子どもの豊かな発達や育ち」のため、少なくとも「不適切保育」を生じさせないような政策・施策等を訴えていくなど双方向の活動が必要と考える。
- 「教育保育現場のニーズ」が新しい要領や指針の方針と大きくズレがある場合がある。そのため、学生が現場に実習に行った際に大きな戸惑いを受けることが多い。「教育保育現場のニーズ」に向けるだけではなく、養成校が連携してこのズレを少なくしていく活動を期待する。

項目2 学校運営

- ・項目2について、全般的に高い評価ができる。
1. 運営方針を学内関係者に周知徹底しており、各部署がそれをもとに組織整備され円滑に機能していることが確認できる。学内外問わずコンプライアンス体制、情報公開体制の整備がなされている。情報システム化も時代に則して整備され、各業務の効率化が図られている点も特筆すべき点である。
 2. 運営組織に基づき事業計画・就業規則等十分に整備されていると評価する。コンプライアンス体制を整えるための組織整備については、今後の課題として取り組みを期待する。教育活動等の情報公開では、インスタグラム、ツイッター、ホームページで新着情報が発信されている。情報システムの効率化を図るためネットワークを利用し活用できるとよい。
 3. 運営組織に基づき事業計画・就業規則等が十分に整備されていると評価する。
 4. 情報システム化による業務の効率化については、紙媒体を削減する方向であることは承知しているが印刷物配布のメリットもあるため、印刷機の整備も必要と思う。
 5. 情報公開について、ホームページや様々なSNSを使った情報発信が頻繁になされており、教育活動の様子が十分に把握でき、高く評価できる。今後とも、学生の年代に合わせた情報発信に努めて欲しい。コロナ禍の影響で外部委員の会合が実施できなかったことは止むを得ないが、今後もこのような状況を想定し、リモート会議を活用した会合の実施等を検討して欲しい。
 6. 学校の教育理念の一つである「社会人としての自立」「女性の自立」を目指す上でも「産前産後休暇や育児休業等の就業の多様性に対応できる規定の整備」を進められていることが評価できる。教育活動をHPだけでなく、SNSでも日々発信しているところが評価できる。次の段階として、社会に向けて幼児教育・保育の本質とは何かなどの周知のためにも、発信内容の質を高めることを期待する。

項目3 教育活動

- ・項目3について、全般的に高い評価ができる。

1. 教育理念に沿った教育課程の編成・実施が、適正な学科配置、キャリア教育、関連分野企業との連携などを通して展開されている。活動評価も各方面から頻繁に実施され、その改善が適正に実施されている。教職員の資質向上も充実した研修体制で実施されている。教育、保育施設が多様化するなかで、教育・保育の現場も様々な対応を求められる時代となり、現場視点での教育方法の研究を進める体制に期待できる。また、学生の視点からの評価をアンケート方式で実施している点も評価できる。
2. カリキュラムも幼稚園教育養成課程・保育士養成課程に基づきしっかり教育していると評価する。就職ガイダンスを授業外で、第1部は2年間で14~15回、第2部は3年間で10回ほど実施して「職に就くことの重要性」や「社会のマナー」などを身に付けている点は、マナー教育も現在の保育士にとって保護者対応における重要な知識であるため評価できる。しかし、その知識が反映されていない学生もいるため、教育の仕方に再考の余地はあると思う。教職員と現場のデータの協力を行う機会があった。教員の先進的な知識・技能等を習得するための努力が良くわかった。良い研究が行われていると評価できる。
3. 新教育課程の改善や領域を含めた新課程のカリキュラムの充実はシラバスからもよくわかり、高く評価できる。
4. 授業評価を実施し、教員にフィードバックすることにより授業の質の向上につながる機会として良いと思う。学生の中には、あまりにも個人的かつ攻撃的な意見を書いてくる者もいて、言葉の使い方やふさわしい表現の仕方を指導して欲しい。
5. 授業に保育現場での実践的内容を多く取り入れていることは、大変高く評価できる。また、人間関係が希薄となる中、学校で「社会のマナー」を学ぶ機会を提供していることも素晴らしいことだと思う。
6. コロナ感染症の収束後は、ぜひ実習反省会等の意見交換の場を再開して欲しい。
7. 子ども・子育て支援新制度だけでなく、新しい要領や指針を踏まえて、教育保育現場も大きく変遷している。そのため、より新要領や指針を踏まえた学びを深めた学生が教育保育現場に出てくることを期待する。

項目4 学修成果

- ・項目4について、全般的に高い評価ができる。
1. 専門職への就業率向上を目指し、また就職後の卒業生へのフォローも適切に行われている。特に新型コロナウイルス感染症の影響の中で適切な学習指導がなされている。人材活用の点から長期履修コースや夜間部は、幼稚園、保育園にとっても望ましい制度であり是非継続を願うものである。
 2. 専門職若しくは専門性を生かした職場への就職率は非常に高いが近年就職1年以内に退職する者が出てきている。ガイダンス等で就職することの重要性と離職のデメリット等を在学中にしっかり伝えていくことが大切であると思う。コロナ禍においても、オンライン授業を行い学びを止めることなく対応していた点は評価できる。
 3. 専門職・専門性を生かした就労で、高い就職率を維持し続けていることはとても高く評価できる。
 4. 幼稚園・保育園などの専門性を有する職場へ高い割合の就職率を維持できていることは、大変高く評価できる。就職先や実習先の園と連携がとれていることも高評価できる。またコロナ禍においても、就職した園と面談をする等の対応は素晴らしい。園との良好な関係があればこそ、卒業生の動向、評価が把握できると思うので、今後とも幼稚園、保育園と連携をとって欲しい。

項目5 学生支援

- ・項目5について、全般的に高い評価ができる。
- 1. 就職・進学に関する支援体制、在学中のスクールカウンセラーによる相談体制が充実している。学生の健康管理、生活環境への配慮、保護者、卒業生に至るまでのきめ細やかな対応体制充実にも留意され、それに基づく安定した学生生活の様子が伺える。また、職業体験という視点から中学生、高校生に対する門戸開放を推進する体制があることは将来、幼稚園教諭、保育士を目指す生徒にとって心強い。
- 2. 現場が必要としている実践的な内容を授業に多く取り入れていること、就職ガイダンスにも力を入れていることも保育現場側として高く評価できる。卒業後も貴校の卒業生の様子を先生自らが確認に園を訪問する等しっかりケアができています。一方、学生の精神面のケアの不足を感じる。生徒1人1人を早期の段階で面談等を行い細やかな対応が出来ることが必要と感じる。スクールカウンセラーと相談できる場を、毎週設置して学生に寄り添う機能が整っていることは評価できる。
- 3. 学生への経済的支援については、日本学生支援機構の奨学金や就学支援新制度の対象機関となったこと、文化学園の独自の奨学金制度が整備充実されていて、様々な環境の学生に対し門戸を開いていることは高く評価できる。そのことが学習意欲の向上につながるような指導をお願いしたい。
- 4. 学生の健康管理を、教職員すべてが共通理解をもって取り決めて実践していることは評価できる。
- 5. 学生への経済的支援は、学校独自の奨学金制度を整備するなど高く評価できる。
- 6. メンタルヘルス不調となる人が増えるなか、カウンセラーによる相談体制が整っていることは高く評価できる。

項目6 教育環境

- ・項目6について、全般的に高い評価ができる。
- 1. 附属幼稚園での実習はもとより、学内外、海外での実習プログラムが用意されている点は特筆すべきことである。新型コロナウイルス感染症の対応が変化しつつある昨今、コロナ前の展開へ回帰することを期待する。
- 2. 幼稚園教諭・保育士を養成するために必要とされる音楽室、図工室、PC教室・図書館が整備され、教育機器備品（ピアノ・プロジェクター等）の充実、多様な学習環境への配慮ができています。教職員の防災に関する体制を整え、出校日等を利用してクラスごとに避難訓練を実施していることは防災意識を持つうえで評価できる。
- 3. オージーキッズ・マーメイドウォーターズ幼稚園などでのオーストラリア保育実習ツアーが再開、イマジンカレッジの提携など日本だけでなく海外研修にも目を向けている点は、国際社会における質の高い人材育成に役立っていると感じるため、高く評価できる。
- 4. 保育現場ではICTの導入が進んでいる。様々なデバイスが保育現場にも取り入れられてきているので、経年劣化した機器の更新とともに、これらへの対応も進めて欲しい。昨今、大規模災害が頻発している。また公共交通機関の運休による帰宅困難等も予想されるので、十分な非常食の備蓄に引き続き努めていただきたいと思います。

項目7 学生の受入れ・募集

- ・項目7について、全般的に高い評価ができる。
- 1. 高等学校、ハローワークなどへの情報提供や、各種メディアを使った情報発信を充実させている。入学選考は適正公平であり、納付金も妥当で奨学金制度のさらなる充実を目指している

点も学生は心強い。

2. ホームページでの学校案内をはじめ、オープンキャンパスの体験授業や個別ピアノレッスン等を行っており高く評価できる。職業訓練生の受け入れにも協力的なことも良い。リモート説明会や個別相談の実施等、時代の流れにあった取り組みができています。
3. 企画広報室を中心にホームページSNSでの発信は、オープンキャンパス・AO入試・学内の様子などきめ細かく頻繁であり、募集に貢献して高く評価できる。
4. 広報担当職員による高等学校への情報配信は、保育職に関する正確な情報提供に寄与していると思われ、素晴らしいと思う。また、地域的にも幅広く学生募集ができていていることは、大変評価できる。

項目 8 財務

・項目 8 について、全般的に高い評価ができる。

1. 財務状況は安定的で、入学者も増加しており盤石なものと拝察する。
2. 評議員会・理事会の機能がしっかり機能している。公認会計士による監査を行っているので問題ないと評価する。
3. 評議員会・理事会の承認、公認会計士の監査そして情報公開までしっかりと行われていて高く評価できる。
4. 情報公開を行い、公認会計士の監査を実施しており、全体として高く評価できる。

項目 9 法令等の遵守

・項目 9 について、全般的に高い評価ができる。

1. 各法令、専門学校設置基準等に沿って適正に運営されている。
2. 個人情報保護の遵守は、学生が就職した後も重要な事なので、SNS の取扱とともに、引き続き指導をお願いしたい。場合によっては専門家を招いての講習会なども効果的ではないか。

項目 10 社会貢献

・項目 10 について、全般的に高い評価ができる。

1. 附属幼稚園、児童養護施設、障害者施設などでのボランティア活動が多く実践され、地域に対する貢献活動も積極的に実施されている。こうした活動もウィズコロナの考え方のもと、再開を期待するものである。
2. 近隣の障害者施設のイベントの手伝いやボランティア活動を行っていること、学内施設を教育・文化活動の団体に貸与していること、子ども図書館を地域に開放する等、社会貢献について評価できる。今後とも継続し、より一層の充実を図って欲しい。

全般的なこと、その他

- ・全体的に高く評価できる。
- ・学校の自己評価に賛同できる点があり、評価については問題ないと評価する。
- ・毎年、学校自己評価を継続して行うことにより様々な改善が図られ、特に教育内容の充実、広報の周知、学納金の減額及び修学支援による減免などが学生数の増加につながり、成果を感じる。